

平成25年度 教育モニターからの教育情報(情報提供のみ) 8月分

月	住所	性	歳	テーマ及び情報内容	担当課
8	本巢市	男	60	<p>【地域で取り組む青少年育成】 小学生から青年団までつながる取組について 本巢市社会教育課の事業の一つに、市内の4年生から6年生で構成される「もとすガキッコクラブ」がある。年間24回のさまざまな自然や文化、遊びを体験する活動が計画されていて、講師は社会教育指導員の外に地域の文化クラブの代表者や専門的スキルをもった方たちである。 そのサポートとして活躍したジュニアリーダークラブは、市内の各種行事や奉仕活動などで、裏方となって積極的に活動を盛り上げている団体である。そのクラブのメンバーの多くが、ガキッコクラブを卒業した子たちであることに注目したい。また、学校を卒業しても青年団として活動に関わる人もいる。ガキッコクラブという活動を通して、地域の子どもたちと自主的に関わり、青少年育成の道を歩む大人がまた一人、また一人と誕生していくという地域の太いつながりを見ることができて嬉しく思う。</p>	社会教育文化課
8	山県市	男	60	<p>【山県市教育センターの活動について】 平成15年に山県市の3町村が合併して山県市が誕生した。その年に市の教育センターもスタートした。当初は伊自良中央公民館続いて高富中央公民館の一角に事務所を置いていて、研修会場の確保に苦労があったと聞く。平成22年より旧富波小に移転した。研修施設（エアコンの設置等）の充実と相まって事業内容も充実してきた。 今年度もいくつかの事業が計画され実施されている。この夏休みで言えば、マイニーズ研修と銘打たれた教職員の研修会が4日間で26講座開かれた。講師は市内の教職員（教科・学級経営等）や有識者（歴史、陶芸等）で参加者は延べ333人（市内教職員236名：非常勤職員も含む）に上ったとのこと。 本市も人口3万人をきり、児童生徒の減少が進んでいる。こうした現状だからこそふるさとを足場に確実な学校教育の推進が望まれる。それには教職員の資質向上が大切である。市教育センターの存在意義がここにある。</p>	教育研修課
8	笠松町	男	60	<p>【小学生が高校で缶バッチづくり】 毎学期土曜日に開催されている「笠松町こども わくわく広場」の夏休み特別講座「缶バッチづくり」が8月27日、岐阜工業高校で行われた。事前にこの講座に申し込んでいた笠松町の小学生9人が、岐阜工業高校のデザイン研究部の顧問の先生と部員10人の指導でパソコンを使って缶バッチづくりを体験した。午前9時から11時半までの2時間半であったが、高校生が小学生にマンツーマンで対応し、小学生の「思い」や「作りたいもの」をうまく引き出し、根気強くパソコン操作の支援をしていた。 「缶バッチづくり」の講座の終わりに、お世話になった高校生の元に走り寄り、笑顔で握手を交わしていた姿がとても印象的であった。高校という地域から離れた存在でありがちであるが、笠松町がすすめている「道徳のまち笠松」に岐阜工業高校の生徒も積極的に参加をし、地域と共に活動（生活）していこうとする気運がある中、このように高校生が小学生を教えるということができたのではないかと考える。 胸に自分で作った缶バッチを2つも3つも付けて得意げに帰っていく小学生をみると、いい特別講座が開催されたと感じた。</p>	教育総務課